

おごおり俳句&ウォーキングが行われました

平成 24 年 9 月 30 日、小郡俳句同好会の方々のご協力のもと、小郡の自然に触れてウォーキングしながら、俳句を楽しもうという新しい試み、「おごおり俳句&ウォーキング」を行いました。

前日の台風の影響が心配されましたが、当日は雨も風もやんで、真夏のような晴れ間ものぞきました。

午前 10 時頃、文化資料館を出発し、途中の道にある句碑を眺めながら栄山公園を、山ぞいのハイキングコースを通して其中庵へと向かいます。



かるかやの風になびきて聖志の碑 のりに
解説を聞きて読める碑金木犀 元太郎
栄山公園 友沢聖志句碑の前にて。

道端に咲く秋の草花を眺めたり、見晴らしのいい場所から SL の煙たなびく小郡の街を眺めたり、幼いころにかえってムカゴやじゅず玉を取ったりしながら歩いたり、秋の風景を楽しみながら、お昼前に其中庵に到着しました。

其中庵では山頭火の句碑や使用した井戸などを見ながら、其中庵の周辺を散策しました。

満開の赤と白の曼珠沙華の中で、ここまでの道で作った句を推敲し、昼食までに投句します。



曼珠沙華赤白と咲き其中庵 縁
どの句を投句するか、どんな表現にするか、皆さん真剣な様子です。



小鳥来る其中庵の空仰ぐ 久子
山頭火も愛した柿の木のこずえに、名前のわからない鳥が。

投句を終え、其中庵休憩所で昼食を食べた後、皆で作った句を鑑賞しました。参加者は、句作に慣れた方もいればまったくの初心者の方もいらっしゃいましたが、鑑賞し投票していく時には、誰の作った句かわかりません。どの句を誰が、どんなふう感じて選んだかを聞きながら鑑賞するのは、なんともいえない楽しみがありました。



山頭火ま中にをはす秋の句座 路子

其中庵休憩所での選句風景です。

それぞれの句を味わいながら、和気あいあいと過ごしました。

俳句&ウォーキングは、今回はじめての企画でしたが、おかげさまで多くの参加者の皆さんに喜んでいただける行事となりました。

今後も、館の行事として計画していきたいと思っておりますので、興味を持たれた方はぜひご参加ください。

【参加者投句】（選句の時の順で掲載しています）

1. 辻地蔵のこれより山路薄紅葉 千鶴子
2. 秋茄子に主婦の顔出し吟行す 延子
3. 開かずの門くぐりて句碑や桐一葉 良子
4. 台風の大きく逸れて俳句ウォーク 良子
5. SLの残すけむりや鴉の声 あや
6. 枯れ谷に水の戻れり秋の雨 陽子
7. 秋の草水なき川を下りけり てんこ
8. 農高跡畜魂碑守る秋のくす 昭子
9. 露の草句碑の傍えにひっそりと 南津子
10. つゆ草の一途に句碑に寄り添へり 美子
11. 木の陰に一群れ残る彼岸花 ひとみ
12. 木屋の香につつまれて夫婦句碑 縁
13. 秋の空汽笛聞こゆる遥拝所 のりこ
14. 秋の日に起き上がりさう寝牛句碑 紀子
15. 曼珠沙華赤白と咲き其中庵 縁

16. 解説を聞きて読める碑金木犀 元太郎
17. 草の花根っこのつきしまゝ活ける てんこ
18. 水音にこぼるる萩となりにけり 縁
19. 句碑巡る真赭の芒手に揺らし 紀子
20. 其中庵休憩所というところ南無観世音 健一
21. 彼岸花寝牛碑脊より温めをり 美子
22. 爽やかや俳句ウォークの始まりぬ 縁
23. 曼珠沙華あちらこちらと自由律 路子
24. 鳥声を聞きつ坂道木の実踏む 延子
25. 山頭火になりきって入る秋の山 千鶴子
26. 大がめの秋水をくみ聖志の碑 あや
27. 庭隅の句碑を灯すや彼岸花 延子
28. 爽やかや嫁のべールに仙人草 良子
29. かまきりが持つ子の腕にのぼり来る 陽子
30. 秋の草ほんにおかしき名のつきし てんこ
31. 颱風の逸れて日を受く其中庵 元太郎
32. たらの葉の木の下にひっそりまんじゅしゃげ 昭子
33. 山よりの猿降りてくる秋の畑 南津子
34. 菊薫る赤い帽子の辻地藏 のりこ
35. 其中庵の三和土もかわく萩の風 純子
36. 人住まぬ家の門口彼岸花 隆行
37. ゆっくりと歩いて探す秋の草 元太郎
38. 山頭火万歳人生 健一
39. 露草に残りて昨夜の雨しづく 紀子
40. 山彦と葛引き合へる句碑の前 千鶴子
41. 野分それやさしく揺れる萩の花 隆行
42. 行く雲が静かにゆっくりと 健一
43. うすもみじ無心の風を誘ひをり 美子
44. 昨夜の雨金木犀の香にやどり 良子
45. 手水鉢の音あふらして秋澄める 千鶴子
46. 秋の草男の声の谷下る あや
47. 傘持ちて台風一家と吟行す 延子
48. 道草し友と遊びしかやつり草 和子
49. うすもみじ木のでっぺんから秋が来る 陽子
50. 空青く春霞の句碑に桐一葉 てんこ
51. 白壁に桐一葉の碑を守る 昭子

52. 色づきし小郡櫻第一号 路子
53. 露草の青きわまりて其中庵 縁
54. 玉垣や維新の誉佇みて なつ子
55. 茶の花に日ざし戻りぬ其中庵 紀子
56. S Lの汽笛のとどく山は秋 久子
57. ついてくるひとりひとりに秋の風 久子
58. 初めての吟行台風うまく逸れ 南津子
59. 木の実降る昼助手席に白き犬 久子
60. 曼珠沙華薬につらなる水の玉 久子
61. 幼な子の声よみがえる花野道 ひとみ
62. 柿の木に名を知らぬ鳥其中庵 元太郎
63. 暑さの夏ゆきて秋の音 健一
64. 狗尾草の丈に風吹く畜魂の碑 良子
65. 寝牛碑のねむり醒ますや曼珠沙華 千鶴子
66. 記念樹の痛む声きく秋の風 あや
67. しみじみと今日の幸せ秋うらら 和子
68. ウォーキング名残の蟬に励まさる 純子
69. 彼岸花池の濁りを清めをり 純子
70. 秋風におされて登るさかえ山 孝子
71. 秋風の吹き広がりて其中庵 昭子
72. 山頭火ま中にをはず秋の句座 路子
73. 小鳥来る其中庵の空仰ぐ 久子
74. 彼岸すぎ地藏の頭巾似合う頃 隆行
75. 野紺菊手向けて辻の地藏さま 縁
76. S Lの煙を残す秋の空 ひとみ
77. 人住まぬ庭にさびしく彼岸花 のりこ
78. かるかやの風になびきて聖志の碑 のりこ
79. つぎつぎと覗かれてをりいぼむしり 縁
80. もみじ谷流れ集めて遥拝所 満貴子
81. 山頭火足元に咲く草の花 元太郎
82. 掛けてある行乞衣裳秋の風 みちこ
83. 台風の最中の句会これもよし のりこ
84. 山頭火通ひし径の木の実かな 紀子
85. 縛られてやはずの芽の背の高し 延子
86. 名門も廃居となりて萩の花 和子
87. 句碑にきて秋蝶すぐに見失ふ あや

88. 寝牛の碑取り囲みをり彼岸花 富清
89. SLや汽笛鳴らして秋の空 昭子
90. 大いなる猿の腰かけ風のせて 久子
91. 露草や廃屋守る句碑の二基 富清
92. 友と行く其中庵へとうすもみじ 裕子
93. 珍らしき木の実ちらばる坂の道 ひとみ
94. 秋の蚊にまとわりつかれ大神宮 縁
95. 秋の風サルビアの赤目にしみる 保子
96. ふり返る雨乞山に萩の風 久子
97. 片空の晴れてセイタカアワダチ草 路子
98. じゅず玉に皆思い出を手にとりて 陽子
99. 鯉に鯉重なり合ひて秋深む 縁
100. 無花果の道下にある手の届き 富清
101. 惜しげなく光を地にまくきんもくせい ひとみ
102. 秋澄むや遠くの汽笛聞きながら 和子
103. 瓢箪の畑に転げし二つ三つ 富清
104. 苔の句碑母の脊に似て秋の庭 満貴子
105. 自由という汽笛に乗って降りたところは宮沢賢治駅 健一
106. 秋うらら汽笛に聞ゆる町に来て 路子
107. 柿落葉はひてもはひても其中庵 縁
108. 先人の積み石登る彼岸花 満貴子
109. 秋晴れや山頭火の影追って行く 和子
110. 小鳥なき柿も色付く其中庵 富清
111. 樟枯れて猿の腰掛残り秋 縁
112. 秋桜の微笑みみたり其中庵 てんこ